

日本山岳会 越後支部報

第 34 号

令和4年6月15日

発行 公益社団法人日本山岳会越後支部

発行者 桐生 恒治

新潟県見附市学校町1-9-19

TEL・FAX 0258-62-0148

広報委員長 佐藤 高晴

私の一枚

4月の中旬、友二人と連れ立って、
県境近くの藪山へ。

寒い冬を越え芽吹きが始まりかけ
た、鈍目も無い尾根筋を登ります。

越後の四季の山登りの中で一番楽
しい時期です。

佐久間雅義



古里の再発見

山岳古道調査四つのポイント

副支部長・越後山岳古道プロジェクトチームリーダー 後藤 正弘

いよいよ山岳古道調査が本格的にスタートする。私の地元での事例から四つのポイントを提言したい。

①古里の古道を歩く楽しさを、多くの市民に伝えたい。

中世の山城である春日山城址（本丸）の周囲は、いくつかの砦（山）と村里が組み合わされ一体的な城郭となっている。

近年、これらの古道が整備され気楽にトレッキングできるようになった。北は日本海から南の南葉山、そして東の春日山から西の桑取谷までの丘陵地一帯（標高一〇〇～二〇〇m前後）である。

いくつもの古道がありコースは自由だ。日本海や頸城アルプス、米山から関田山脈などの景観に優れ、四季折々の自然を満喫することができる。

子どもから熟年まで、自然にふれあい歩く喜びを知ってもらいたい。

②古道には長い歴史と文化があるが、ほとんど知られていない。文献を調べ、古老の伝承から学ぶことで、古道歩きはもっと楽しくなる。

それぞれの村には千年の歴史があり、今でも棚田が耕作され自然と共生した暮らしがある。ほとんどが老人世帯だが、地元根ざしたNPOの活動もあり、生きる知恵と技を伝えているので、多くの市民に知ってほしい。

③山里の住民や古道を守る人々とのふれあいを大切にしたい。

中山間地域の村は過疎と高齢化の中で懸命に頑張っている。棚田や古道の復活、そして維持管理は、地元有志や団体などの創意工夫とボランティアで支えられている。積極的に交流したいと考えている。

④すでに藪におおわれたり崩壊したりして、痕跡が乏しくなっている多くの古道がある。文献や古老からの聞き取りにより、後世に残すための資料を作成したい。調査・研究という分野だが意欲的な会員の熱意に期待したい。

歩くことは長い間生活そのものだったが、戦後の経済成長の中で急激に車社会になり、歩くことが暮らしから切り離された。登山も歩くことのひとつだが、散歩や街歩き、歩行会やハイキングなど、健康志向の高まりの中で「歩くこと」を求める時代となっている。

県下の古道は多種多様なものが多いと思う。四つのポイントを念頭に古道調査を実践できれば、新たな楽しみを提案できるだろう。

そして、多くの人に古道歩きの楽しさが伝わり、わずかでも中山間地の活性化に寄与できれば、こんなに嬉しいことはない。

全国120選・越後関連古道調査に全力を

越後山岳古道プロジェクト
チームリーダー 後藤 正弘

日本山岳会創立120周年記念事業として、全国の山岳古道調査を実施し「日本の山岳古道120選」（仮称）にまとめることになっている。昨年、第一次として全国59古道が選定された。

その後、120古道の素案を作成し、監修者（鈴木正宗・節田重節・高桑信一・根深誠 敬称略）の助言をいただき「山」4月号（No.923）に120古道が「たたき台」として掲載された。各支部との調整後に最終決定される。

◎本年度は、8古道調査を実施

「日本の山岳古道120選」のうち越後支部関連は、9古道（別表参照）選定された。本年度は、この8古道（1古道は昨年調査実施済み）の調査に全力をあげたい。

この古道は上越・中越・下越・佐渡地区を代表する古道であり、景観、歴史、文化など各地域の特徴が見られる。すでに調査日程や担当者が決定されているので、多くの会員から参加いただき盛り上げていただきたい。

【調査古道について】

①米沢街道十三峠の大里峠
英国の女性旅行家イザベラ・バードや良寛、原敬、十返舎一九、伊達政宗、伊能忠

敬など多くの著名人が往来した越後と米沢を結ぶ歴史ある古道。大里峠は大蛇伝説が有名。

②金北山（檀特山）金剛山の三山駆け
三山駆けは吉野、熊野、大峰にならったもので、このため佐渡の三山駆けをやることで、同じ修行ができる考えた。

三山駆けや初山駆けは、地区や集落によつて違ったと言われるが、美しい自然とともに多くの島民を育んできた佐渡を代表する古道である。

③八十里越

古くから越後と会津を結ぶ生活の道である。高倉宮衣仁王が会津から越後へ逃れたという伝説や戊辰戦争で長岡藩家老河井継之助が新政府軍との戦いに敗れ、重傷を負って担架に乗せられ詠んだ「八十里、腰抜け武士の越す峠」という自嘲の句は、よく知られている。

④六十里越古道

会津街道六十里越は、堀之内で三国街道と分かれて魚野川を渡り、破間川に沿って遡り、浅草岳の南側を通って只見町に通じる古道。

近世では越後縮の原料となる青苧や雑貨などが運ばれ、物流を支えた。豪雪地帯で崩壊なども多く、藪におおわれている。裸山乗越付近を中心に踏査する。

⑤枝折峠（銀の道）

銀の道は、江戸時代に銀山平（奥只見）の繁栄とともにひらけ、銀山から銀を運び

出す唯一の道として栄えた枝折峠の旧道。駒の湯温泉から明神峠を越え、奥只見（銀山平）の石抱橋までを結ぶ古道。平安時代末期、京の都を追われた尾瀬三郎が通った道とも伝えられている。

⑥塩の道・千国街道（信州の人が呼ぶ名称）
本部PT推薦

松本街道は糸魚川市を起点とし信州松本まで延びる約120kmの古道。日本海側から塩荷や海産物がボツカや牛の背によつて運ばれ、庶民の暮らしを支える道だった。上杉謙信の敵に塩を送る「義の塩」が有名。

⑦六左衛門道

糸魚川市砂場の園田六左衛門が、1839年（天保10年）より23年間、1人砂場から小谷温泉を目指して切り拓いた道。

六左衛門翁が築いた道は生活道となり、また製炭業を起こし地域に貢献した。地元の霜越嘉男氏が中心となり、古道（一部）を復活させた。

⑧上州から越後の道（三国峠・三坂峠・清水峠） 群馬支部推薦

三国街道は、上杉謙信の関東出兵、長岡藩等の参勤交代、幕府の佐渡金銀山経営など歴史的に重要な道である。

越後と関東を結ぶ道は、三国峠、三坂峠、清水峠などそれぞれの歴史があり興味深い。

山岳古道調査対象古道（越後支部関連）

No.	古道名 (補足)	都道府県	調査担当支部	担当者 (推薦者)	調査予定日
1	越後米沢街道・十三峠 大里峠を含む	山形県 新潟県	越後支部 本部PT	渡邊 忠次	6月12日(日)
2	金北山～檀特山（だんとくさん）～金剛山（こんごうさん）の三山駆け	新潟県	越後支部	藤井与嗣明	8月27日(土)～28日(日)
3	会津街道のうちの諏訪峠	新潟県	越後支部	佐久間雅義	実施済み 昨年10月3日(日)
4	八十里越 天保古道・間道も枝道として取り上げる	福島県 新潟県	福島支部 越後支部	井口 光利	7月3日(日)
5	六十里越古道 裸山乗越も含める	福島県 新潟県	越後支部 福島支部	皆川 陽一	9月4日(日)
6	枝折峠（銀の道）	新潟県	越後支部	松井 潤次 (吉田理一)	11月3日(木)
7	塩の道・千国街道 3本の道（小谷村部分）	新潟県 長野県	越後支部 信濃支部	後藤 正弘 (本部PT)	5月14日(土)～15日(日)
8	六左衛門道	新潟県 長野県	越後支部	朝比奈信男	10月22日(土)
9	上州から越後への道 三国峠(三坂峠・清水峠)	群馬県 新潟県	群馬支部 越後支部	松井 潤次 (群馬支部)	10月16日(日)

「越後の山岳古道と峠 80選」

(仮称) について

「越後の山岳古道と峠 80選」(仮称) についてのガイドラインは、下記のとおりとした。(3月5日開催の第2回三役・委員長会議)

今後、会員の意見を聞きながら進めていくことにしている。

①80選の定義については、古道と峠どちらでもよいことにした。

②選定条件

・歩ける古道(研究対象としては、藪化が進んだ古道や一部又は大部分が県道などと重複した古道も対象とする)

・判定は難しいので、各地区の選考に委ねる。

・本部選定古道も含む。

③最終選考について

各地区代表者4名(藤井・佐久間・松井・後藤)の協議で決定。

④各地区の選定数

上越・中越・下越各23古道+佐渡11古道、80古道のリスト素案は作成。

⑤まとめについて

・歩ける峠を「新潟の峠歩き 50(又は30)選」(仮称)として、新潟日報事業社等へ発刊を働きかける。
・総まとめとして、研究を含めて「越後山岳」第15号の特集とする。

地域の山

老若男女が四季を通じて楽しむ

三ノ峠山

諏訪 恵一

三ノ峠山(468.7m)は、旧長岡市の東に位置し、長岡市営スキー場のゲレンデを斜面に持つ四季を通じて市民に愛され、春は山野草を愛で、夏は深緑の木々、秋は紅葉を眺め、冬はスノートレッキングと老若男女に登られる山ながら、あまりガイドブックなどに紹介されることがない。

その昔は、山頂を通り、萱峠を越えて山古志へ、また、萱峠の手前を右折して竹之高地、蓬平へと利用されていたようだが、今は、国土地理院地図には表示されているものの、生活に使う人はいない。

この山に多くの人が登る理由が、登山道がしっかりと整備されていて、小さな子供から高齢者まで安心して楽しめるからだろう。冬



にはスノーダンプ持参で登山道を作ってくれる人もいて、長靴での登山者も多い。また、赤道コース山頂直下の急登手前には登山道整備を行う有志により建てられ管理されている山小屋があり、時には音楽会が開催されるなど、山を愛する者の交流の場になっていることも一因のようだ。頸城三山、刈羽三山など、また、鋸山が展望できる場所には休憩施設もある。

さて、この山への登山道だが、赤道コース、ブナ平コース、スキー場コースがあり、大半が赤道コースを利用しており、赤道コース登山口にある市が設置した案内板にもハイキングコースとして紹介され、他の2コースは何故か「上記のコース以外の道」と記されている。だが、ブナ平コース途中には市民有志によって設置された案内板があるので、コースの確認はできる。

さて、この山への登頂だが、国土地理院地図に記された登山道を正確にトレースすると、大半の登山者が利用し、市の設置した案内板にもハイキングコースとして記載されている赤道コースでさえ、実際に登られている登山道から外れてしまうのだ。ブナ平コースに至っては、記載すらない状況だ。いずれも登山道はしっかりとおり、迷うことはないと思われるが、地図アプリ等で登山ルートを確認の上、登るとよい。岳人が登るのであれば、ブナ平の健脚コースをお勧めしたい。

越後スノートレッキング同好会

スノートレッキング弥彦山に参加して

久保田 千歳

今年初の越後支部のスノートレッキングは晴天に恵まれ、まさに新年初にふさわしい青空のもとでの催行となりました。

さる1月10日、弥彦山裏参道ルート(西生寺→能登見平→弥彦山→少し足を伸ばして大平園地)で登り、昨年寿像修復の竣工式をすませた高頭仁兵衛翁寿像にて集合写真を撮って、昼食となり、当時の山行に思いを馳せながらの山行となりました。

さて、早朝の集合には訳があります。最近我々を最も悩ます「コロナウィルス感染防止」の為に、参加者すべての検温、手指等の消毒に時間を費やす為です。



集合して全員がマスクを着用した物々しい中で頂戴した新年のご挨拶は、「コロナ感染対策第一、昼食以外はマスク着用、行動中は2メートル以上の間隔をとる、昼食前の手指の消毒、三密を避けて黙食、そして背中合せて昼食等、楽しくない山行になりそうです。」とのお話。

しかし、そんな雰囲気をも吹き飛ばすかの如く、晴天に恵まれ、朝8時半過ぎの出發から、本来ならラッセルの為のワカン着用の山行が、まさかの雪がほとんど無い道、登山靴又はピン付き長靴での出發となりました。

能登見平に9時50分過ぎに到着。出發して約1時間半となります。ここからの景色は最高でした。見上げる山頂の真つ青なこと。日本海に浮かぶ、薄ら雪をいただいた佐渡ヶ島の綺麗な景色。ワクワクしました。しかし、そうばかりも行きません。坂が始まり、アイゼン無しの歩行では氷の道と化した登山道はとても怖く、不慣れな私は冷や汗たっぷりかきました。冬道はあなどるなかれ！ 良い教訓になりました。

そんな大変な苦勞も山頂に着き一変しました。360度の景色に感動し、青空のもと各々でお参り、写真撮影会。

まさに今年初登山に最もふさわしい日であつたと心から感じ、また久しぶりにお会いする方、初めて一緒にいる方等々、すべてが愛おしく、楽しく、思い出に残る一日となりました。越後支部の弥彦山登山参加は初めての私でしたが、本当に楽しかった

です。感謝します。

皆さん、またいつか一緒にできる日を心より楽しみにしています。

越後スノートレッキング同好会・山行委員会

残雪の日向倉山登山

廣井 博行

4月21日、日本山岳会越後支部と新潟県山岳協会の合同企画として奥只見にある日向倉山登山が実施されました。集合場所のシルバライン入口に6時30分、県内各地より男性、女性合わせて26名の参加予定です。少し待って、まだ4名が到着しないが登山口の銀山平白光岩橋に車に分乗し移動する。ここでアイゼン装着など登山の身支度を整える。今日の参加者の自己紹介を行い、県山協副会長の遠藤俊一さんから御挨拶



を頂き出發となった。胎内、新津のメンバーがまだ来ないが時間の制約もあり、井口さんが待機するとの事。

今日は天気も良く絶好の登山日和だ。残雪も2メートルはあるのだろう、この山は夏道は無く残雪期限定である。7時30分、渡辺CLの指示で白光岩橋より1000m上流側の尾根に取り付き、最初から急登でゆっくりと登りはじめる。

登り始めて10分。まだ見えなかった4名が交通事故に遭ったとの連絡が渡辺CLに入る。中止か？渡辺CLの判断で続行が決定される。ガチガチの雪ではないがアイゼンが良く効くブナの木の下は大穴が開き春の季節感たっぷりだ。振り返り見れば荒沢岳がその雄姿を魅せている。8時50分赤崩山分岐、ここからの稜線は広く、天候によつては迷い易いところだ。9時30分ピーク1196m、この辺りは小さなアップダウン。10時ピーク1277m、風が少し出てきた。最後の登りを頑張り10時45分日向倉山山頂到着。360度の展望で会津の山や越後の山と絶景だ。ここで景色を楽しみながら昼食とする。やはり雪山、風があると肌寒いので11時35分下山開始となり往路を戻る。下山は早いもので途中赤崩山に寄る。12時50分到着、少し休憩して最後の下りに掛かるとあつという間に登山口の白光岩橋に13時45分到着。

越後支部後藤副支部長の閉会の挨拶後解散となった。



フォト・スケッチ同好会山行報告

「西山日光寺・出角山へ行く」

遠藤 俊一

西山日光寺は、桓武天皇の命を受け、伝教大師最澄が西暦782年に建立したと伝えられる天台宗の寺院である。往時は寺域が約2万坪、本堂や12の僧院があつたという。現在は鎌倉時代作の仁王像がある山門、明治時代に再建された薬師堂等が残っているだけで、住職もいない。

その裏にある出角山(標高485m)は、夏道は無く積雪時に登るのが一番である。山頂付近には、幹回り5.4mの杉「大黒杉」がデンと構えている。枝を左右に大きく広げ、さあ来いとばかりに見るものを圧倒する。

令和4年2月27日9時、阿賀町役場の駐車場に参加者8名が集合し、西山日光寺に近い弘川集落の共同駐車場へ向かう。ここからは雪道、西山日光寺迄約3kmワカン装着しての歩行となる。誰も訪れない冬の雪道は、ワカンを着けていても沈み込み歩き

にくい。歩くこと約2時間で日光寺へ到着。山門の仁王像や薬師堂の見事な彫刻をしつかりと写真に収め、出角山目指して歩を進める。途中の平場に荷物を置いて、急坂を登りきると大黒杉が見えてくる。北西方向から見ると圧倒的な迫力である。その先200m進むと山頂到着だ。大黒杉や周囲の山々を思い思いにカメラに収め、13時に荷物を置いた場所で昼食をとり、来た道に戻って本日の山行を終了した。

YOUTH交流登山 ～西蒲三山縦走～

知野 勇人



2021年の11月に本部YOUTHクラブ4名と玉木YOUTH委員長に私の6人で2日間に亘り菅名岳と弥彦山に登って楽しく交流を図ることができました。その時、

来春に花の西蒲三山縦走をする話を持ち上がり、玉木委員長が段取りを整え、小山副支部長と渡辺山行委員長に車の配送の協力を願い、4月2日(土)に実現の運びとなりました。

今回のメンバーは本部から前回参加の2名に二十代2名が加わったの4名と、支部からは多田和弘さんと小根山淑美さんの若手2名が参加されて合計8名となりました。小山、渡辺両氏に国上道の駅に前泊した本部メンバーの送迎等を手際よくやっていただき国上寺を6時に出発しました。国上山から剣ヶ峰に着いた頃には時折陽も当たるようになり頭上にはアブラチャンが満開です。黒滝城跡から瀬手道を下りましたが、泥濘と一部崩れた所が有って唯一の難所でした。猿ヶ馬場から能登見平を通り10時に登山者で賑わう弥彦山に着きました。高頭翁寿像前で記念撮影を撮り多宝山、石瀬峠から通称魔女の森を抜けて樋曾山を過ぎたある所で白カタクリが数株点在して咲いており目を楽しませてくれました。五ヶ峠から17時半に角田山頂に到着。灯台コースを佐渡島の向こうに沈む夕日を見ながら角田浜に着きました。その後、寺泊の民宿に宿泊して更に懇親を深め、SNSで面識が無くても自在に情報交換している話に感心しました。5月に佐渡山行の計画もあり継続的な交流が発展していく事になると思っています。今回の山行では小山、渡辺両氏に快くご協力をいただき感謝いたします。ありがとうございました。

国上山周辺清掃活動(4/10) 報告

佐藤 高晴



黒滝城跡にて

残置車4台などは7・30に猿ヶ馬場峠に集合し、酒呑童子神社駐車場で受付を行い、朝礼の後、8・50に出発した。この行事は、燕山岳会と越後支部が主催し、弥彦山岳会と越後吉田山岳会が後援する、国上山周辺で清掃活動を同日開催する取り組みで、参加者は総勢50名を超えた。越後支部などのコースは、国上山麓登山口～蛇崩～国上山～剣ヶ峰～黒滝城跡(昼食)～猿ヶ馬場峠だ。当日は、4月なのに夏日の暑さであったが、一部の方が国上山に登らなかつた以外は全員が予定コースを歩くことが出来た。登山道沿いのゴミは僅かしかなかった。近年は、多くの登山道で同じように散乱ゴミの減少が見られるが、登山マナーの向上も一因であろうが、リサイクルが進み、空

き缶も有価物との認識が広まったことも影響しているように思う。ただ、猿ヶ馬場峠付近では、車道沿いに古いビニール袋などのプラゴミなどが多量に埋積している場所があった。登山者ではなく車からの投棄が疑われるため、時間的な制約もあり、ここでは一部しか清掃せず、清掃活動を終了した。

第65回高頭祭参加と 弥彦山清掃登山に協力を

支部長 桐生 恒治

7月25日(月)に第65回高頭祭を、弥彦山大平園地で午後2時30分から開催します。昨年は寿像修復工事のお祓い儀式を兼ねましたが、今年度は高頭仁兵衛翁の寿像設置意義を紹介する説明看板を新設し除幕式を兼ねて実施します。本部から多数参加を予定しており、支部会員皆様の参加をお待ちしております。

また自然保護委員会は、同日午前8時頃から、スカイライン大平園地登り口から寿像までの登山道草刈りを行う予定で、作業協力者を募集しています。高頭祭終了後に安全登山祈願祭やたいまつ登山が行われる場合は、大平園地から弥彦本山奥の院までの登山道ゴミ拾い清掃を実施予定であり、ご協力をお願いします。

(高頭祭問合せは桐生恒治・小山一夫まで、清掃登山問合せは小野寺昭彦・井口礼子まで)

第5回子ども登山教室

「山の日」を親子で楽しもう！

自然保護委員会 鶴本 修一

昨年は緊急事態（コロナ感染急拡大と大型台風の接近）で、当日直前にやむなく中止に。しかし、事前学習会を実施したことがせめてもの救いとなりました。今回は、コロナ感染防止にも十分に配慮したコースと日程を検討し、4月の実行委員会から準備を進めています。昨年、中止連絡を参加者へ伝えた際、「準備し、楽しみにしていたのに残念です。来年は是非実施してください」と期待するメッセージが今、よみがえってきています。

【第5回 子ども登山教室】計画概要

（糸魚川―静岡構造線・塩の道（南部））
根知・しろ池・戸倉山 自然観察と登山

○事前学習会：7月31日（日）

・糸―静岡構造線、フォッサマグナ学習
・自然観察のポイント、スライド学習
・安全登山と準備（体調・服装・持ち物）

○実施期日：8月11日（木）「山の日」

※根知・しろ池の森駐車場集合、解散
（主な体験学習の内容）

・しろ池周辺とブナ林の自然観察
・戸倉山（975.5m）の登山
・古道・塩の道を歩く（大網峠往復）

今回が、糸魚川市で実施する最終の事業。回を重ねながら蓄積してきた運営体制を基に、越後支部ならではの「子ども登山教室」となるよう、事前準備に努めていきます。

山行委員会

アルプスと海をつなぐ「梅海新道」

朝日岳・犬ヶ岳・白鳥山

縦走登山のご案内

梅海新道は、日本海の高尾山から白鳥山、犬ヶ岳を経て朝日岳を結ぶ北アルプス最北部の縦走路です。特に朝日岳と黒岩平の中間にある「アヤマ平」の名前の由来となったヒオウギアヤメなど、さまざまな高山植物が咲き誇り、北アルプスの桃源郷と言われております。今回の企画は2泊3日の縦走であり、健脚者向けコースであることを考慮し参加申し込みを頂きますようお願い申し上げます。

1 期日 2022年8月4日（木）～6日（土） 【7日（日）・予備日】

2 集合 親不知観光ホテル駐車場 6時
3 ルート 8/4（木）親不知観光ホテル～タクシール～北又小屋～朝日小屋（泊）（歩行：8時間） 8/5（金）朝日小屋～犬ヶ岳～梅海山荘（泊）（歩行：8時間） 8/6（土）梅海山荘～白鳥山～坂田峠～タクシール～親不知観光ホテル（歩行：8時間）

4 参加対象 日本山岳会越後支部会員で山岳保険加入者としてします。

5 参加費 1000円＋実費
6 参加申込 7950～2041
新潟市西区坂井東2-1-15 渡辺茂宛
TEL/FAX: 025-231-0590
携帯: 090-2537-3548
Eメール: sjikorob@mb.tlp.ne.jp

7 申込締切日 6月20日（月）（期日厳守でお願いします）

*なお、詳細は日本山岳会越後支部ホームページ

ページをご覧ください。

山行委員会

朝日連峰 初秋の大朝日岳

（1870m）登山のご案内

朝日連峰の最高峰でかたちの整った山容から盟主の座に君臨しているのが大朝日岳だ。今回は遠方であるが東北編として初秋の朝日連峰を訪ねることにした。この時期の朝日連峰の魅力は澄み切った秋の空からの息をのむような、どこまでも続く美しい稜線の大パノラマと稜線に輝く草紅葉である。また、山頂からは鳥海山、月山、栗駒山などが展望できます。

1 期日 2022年9月10日（土）～11日（日）

2 集合 参加申込者に調整後連絡します。
3 ルート 9/10（土）新潟～鶴岡～古寺鉱泉付近（テント泊） 9/11（日）古寺鉱泉～小朝日岳～大朝日岳（往復）～新潟
◎参加対象、参加費、参加申込、申込み締切は、いずれも「梅海新道」の案内と同じです。詳細は日本山岳会越後支部ホームページをご覧ください。

事務局からのお知らせ

●支部会員動向（2022年1月～4月）

1 新入会員 高畑 悦武（申請中）
2 準会員から正会員
佐藤 陽子（16893）
久保田千歳（16899）
佐藤 邦夫（12925）
丸山 健吾（16413）
大塚八千代（7361）
3 退会者

4 物故会員 齋藤 千ヨ（8933）
内藤 修（4832）
井上 勇（10324）

●支部会員総数（2022年4月末現在）

支部会員162名 支部会友5名

編集後記

今号は、古道調査の記事、案内のほか、山行報告、行事案内の記事も多く、少ない行数（文字数）の原稿をお願いせざるを得ませんでした。このため、予定していた内容の一部を割愛せざるを得なかった場合もあるかと思ひます。お詫びするとともに、ご協力に感謝いたします。

国上山の清掃登山では、道中で見られた鮮やかな黄色い花が話題になりました。植物図鑑アプリで調べた人がおられ、ヒメリウキンカという園芸用に輸入された外来種とのことでした。他の山行でも見た話も出て、広がり懸念されていました。広報委員会では、支部報が山行報告だけでは面白くないとの議論がよく出ています。紙面の制約などがありますが、県内全域の支部会員が読者の支部報においても、県内の自然環境の状況にも触れた報告があってもよいように思っています。

4月の日向倉山山行の集合場所へ向かう途中での交通事故では、4人が怪我をされ、その中には広報委員の石山さんと多田さんも含まれています。多田さんは退院されましたが、残りの3人は5月17日現在、入院中で、特に石山さんは重傷だそうです。回復に向かつて頑張っている仲間、心からのエールを送りたいと思います。

（佐藤高晴）